

出題の意図

問1

具体的な刑事裁判の事例を題材にして、主人公である被告人が自分に対する裁判に臨むにあたって裁判に期待していた内容(事件の背景事情を含む真実が明らかにされ、再発が防止されることなど)と現実の裁判において行われること(裁判の当事者に対して法を適用する手続き)の違い(差異)について、内容を正確に理解して簡潔にまとめることができるかを問うものである。

問2

裁判制度(刑事裁判に限られない)は、当事者(刑事事件であれば被告人)の法律上の責任の有無と内容を証拠に基づき法律を解釈・適用することによって明らかにするものであるが、そのことと事件(事案)の真実を明らかにすること、さらに事件の再発防止につながることとの間にはズレがあることを踏まえた上で、裁判制度の役割や一般人が裁判に期待する真実解明(真実は何かを明らかにすること)の意義などについて、自己の見解を根拠を示しながら分かりやすく論じることができるかを問うものである。